

ゆきさん

「1年間」

昨年4月。私は「異邦人」でした。

それからの1年間、当事者の方々の熱量に圧倒され続けました。

そして1年が経った今の私は、まだ「異邦人」です。が、「異邦人」として異国を「体験(講義に触れたという意味)」し、その体験談を、こうして「礼状風レポート」で発信するということを実感しました。レポートが当事者の方々に届く。これも「えにし」。そして、運よく当選すると、「公開講義・倫理と変革の部屋」で公開され、多くの人の目に触れる。これも「えにし」。

「異邦人」であっても、「えにし」を結ぶことができることを学んだ1年でした。

ちなみに、1年間の成果の一つとして、あて先が「ゆき先生」から「ゆきさん」になりました。

そしてまた、「1年間」が始まりました。

ゼミの時間に、論文を仕上げた先輩方の熱量を早速、感じました。「きっかけ」で発熱し、「書きたい」思いが熱量を大きくしていく。そんなことを感じた、素敵な時間でした。

そしてまた、「1年間」が楽しみです。

本日は本当にありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。

中島 薫 (なかじま かおる)

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 修士課程

p.s.

HPV ワクチンについて、副反応(と思われる事案)が紹介されました。その「裏側(国、政治家、医師、製薬会社の事情)」も紹介されました。「情報が無い」ことが、その根源あるのではないかと考えています。

- ✓ いったん、積極的勧奨中断に至った「中断理由」と、再開されるにあたっての「再開理由」。これらの開示は、仮に(動物実験等の)データがあっても、ほぼ開示しないだろう(「闇」、前回接種の副反応を認めることになる、今回接種は副反応がないと言えない)。
- ✓ ワクチン接種者と非接種者との「比較データ」。これの検証は、ほぼ不可能。

副反応の事例を発信することは、「考えるきっかけ」のひとつを発信するという意味で、大切だと思います。一方で、「発信できる情報」の非対称性を認識しながら発信することも、合わせて大切だと思います。

「発信すること」の力を噛みしめたいと感じました。